

INTERVIEW

川崎信用金庫

お客さまにとっての「ファーストコールバンク」という存在であり続けるための取組みとは

川崎信用金庫は、「この街のベストサポーターであり続けるために。」というスローガンのもと、神奈川県川崎市を中心に56店舗を展開する信用金庫です(2024年5月1日現在)。創立は1923年7月18日で、2023年に創立100周年目を迎えました。

今回取材に応じてくださったのは、人事教育部調査役の撰史也さん、同調査役の須藤優駿さん、同女性活躍推進担当調査役の須田美紀さんです。

Q 貴金庫で取り組まれている人材育成教育・研修体系について、お聞かせください。

須田さん 当庫では、キャリアの階層に合わせて行う集合研修をベースに、トレーニー制度、eラーニング、自己啓発、キャリアデザイン研修など、多岐にわたって人材育成に取り組んでいます。銀行業務検定試験は、自己啓発制度の一環として導入しています。

Q 最近実施された研修やセミナーについて、教えてください。

須田さん 最近では、階層別の研修として、管理職候補のためのリーダーシップ研修や、役席者層のためのマネジメントについての研修を行いました。

須藤さん 昨今の研修は、ただ座学として話を聞くだけでなく、時に体を動かしたり、前に出て話したりと、参加者が能動的になるように工夫されているのが特徴です。参加者からは、「日頃の業務とは異なる刺激を得られた」「自身の振り返りや今後のキャリアのための意識づけに役



▲ 川崎信用金庫本店

立った」といった反響があり、人事教育部としては、気づきの機会を提供できたのではないかと、集合研修を定期的に行うことの意義を実感しました。

Q 現在力を入れている業務について教えてください。

須藤さん 昨秋10月から、キャリアデザインの一環で、「ジョブ・チャレンジ制度」という、当庫の本部特定部署に応募できる社内公募制度を始めています。応募者の中から適した人材を選考のうえ、異動させる仕組みであるため、単に応募すれば異動できるというわけではなく、それまでに自身がどれだけ努力をしてきたかも判断材料となります。例えば、「税務2級」が資格要件として定められている部門もあります。今後の組織の活性化にもつながるため、力を入れて取り組んでいるところです。

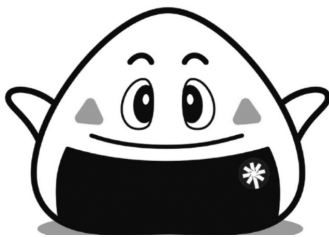
Q 貴金庫が目指している、地域やお取引先に対する役割について教えてください。

須藤さん 当庫では、「この街のベストサポーターであり続けるために。」というスローガンを掲げています。金融面は当然のこと、中小企業の経営の根幹を支えるコンサルティングも含めて、「何かあれば“かわしん”に」をモットーに、お客さまにとっての「ファーストコールバンク」という存在であり続けたいと考えています。当庫の一人ひとりが個人や法人、また年齢層も問わず相談に乗り、支援することを大事にしています。また、川崎では、製造業が一定数あることや、人口増加による共同住宅の需要などが特徴としてありますが、特定の業種に限らず、さまざまな提案ができるようになることも大切です。

撰さん 当庫が川崎という地域に根差していると個人的に実感したのは、新しくオープンした飲食店に初めて顔を出したところ、「“かわしん”さんね」と顔見知りのように対応してくださったときでしょうか。親しく受け入れてもらったことを不思議に感じつつ、地元のお客さまに信頼されていることを実感し、嬉しく思いました。同時に、川崎に住むお客さまならではの人情を大切にしてお人柄も実感しました。

Q 今後の取組みについても教えてください。

須藤さん 今後は、若年層により一層のアプローチをしていきたいと考えています。若い世代は、非対面のデジタルの取引を好む傾向がありますが、そういった世代にもお取引いただくための工夫が必要であると感じます。



▲ 撰さん発案のキャラクター「かわむす」



▲ 左から
須藤優駿さん、撰史也さん、須田美紀さん

撰さん 理想としましては、子どもの頃から馴染んでいただき、大人になっても親しみをもってもらいたいということでしょうか。そんな思いもあって、昨年度、創業100周年を記念して制作したのが、オリジナルキャラクター「かわむす」です。川崎は「三角結び」の発祥の地といわれており、そこに「地域とお客さまと川崎信用金庫を結ぶ」というメッセージをかけています。じつは私が、生みの親の一人です（笑）。今後は「かわむす」を他のキャラクターとコラボさせたりして広めていきたいですね。

Q 最後に、貴金庫が求める人材、理想の人物像とは何でしょうか。

須藤さん 当庫では、「謙虚・勤勉・誠実」を職員が遵守すべき行動指針としています。また、「前向きに物事を捉え、何事にも挑戦する意欲を持つ」ということも同じく重視しています。物事を受け身で捉えるのではなく、自身の頭で考えて行動することができる人材が、川崎信用金庫が求める人材ではないでしょうか。

(お忙しいなか取材にご対応くださいました撰さん、須藤さん、須田さんに心より感謝申し上げます)



個人最優秀賞受賞者インタビュー

川崎信用金庫 人事教育部調査役 えらみふみや 撰史也さん

2023年10月22日(日)に実施された第156回銀行業務検定協会「財務2級」において、撰史也さんが個人最優秀賞を受賞されました。本種目受験の経緯や合格までの学習への取組み等についてお話を伺いました。

—— 財務2級を受験された経緯を教えてください。

当庫では、「研修ステップアップ制度」という自己啓発制度があるのですが、銀行業務検定試験もその制度の対象試験であったため、このたび財務2級を受験いたしました。

私自身も、融資関係の実務経験があったものの、一方できちんと勉強しないと受からなかったと思っています。ですから、結果を聞いたとき、得点が1位(個人最優秀賞)だと知って、驚きました。たまたまだったのではないかと…(苦笑)。

—— 受験されていかがでしたか。

財務2級では、決算書の分析における「なぜ」という部分が出題に問われます。それは実務においても、企業に対していかにアプローチをするかを考えるうえで重要な視点ではないかと感じました。

また、試験ではどうしても見慣れない問題が出てくる場合がありますが、そういうときは気合で解きました(笑)。あきらめずに答案を書くことも、得点を高めるうえで大事な要素だと思います。

—— 受験の際のご自身の取組みについて教えてください(学習期間、学習方法など)。

学習にあたっては、問題解説集に載っている過去問題を繰り返し解きました。学習期間は、1ヵ月半~2ヵ月ほどです。主に土日(約3時間/日)に勉強していましたが、直前の2週間は、平日も使って勉強しました。

社会人は、勉強の時間を確保するということが大変な面がありますが、そこで家族の理



▲ 撰史也さん

解を得られたことは大きかったと思います。

—— 資格取得に対するインセンティブなどはございますか。

受験料に関しては、「研修ステップアップ制度」において、「若手の早期戦力化を図る」という目的があり、一般職員が銀行業務検定試験に合格した際は、当庫が費用を負担しています。

—— 試験に対する要望等はいかがでしょうか。

受験者目線で言いますと、財務2級の180分という試験時間はやはり長丁場で、ハードかもしれません。試験中は集中して解いているので、そこまで気にならないですが…。心の準備が必要ですね。

—— 今後受験される方々に対する一言をお願いします。

銀行業務検定試験は、金融業界のあらゆる業種の方々が受験していますので、自身の知識の習得度合を測り、かつ知識を深めるにはよいきっかけになるのではないのでしょうか。

—— ありがとうございました。